RA協議会第5回年次大会・B-2セッション <u>(第7回</u>JINSHA情報共有会)

研究の発展につながる評価とは~ 「責任ある研究評価・測定(Responsible Metrics)」とURAにできること~

日時: 2019年9月3日(火) 13:20-14:50

場所: 電気通信大学 B棟202(2階)

主催:人文社会系URAネットワーク幹事校

(大阪大学、筑波大学、琉球大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学、横浜国立大学)

プログラム/Programme

13:20-13:30 趣旨説明/Introduction 佐々木結(京都大学学術研究支援室)

13:30-14:00 基調講演 1 / Key note speech 1

Dr. Simon Kerridge

Director of Research Services,

University of Kent, UK

14:00-14:20 基調講演 2 / Key note speech 2

Dr. Elizabeth Gadd (事前提出スライドによる参加)

Research Policy Manager (Publications)

Loughborough University, UK

14:20-14:50 コメント&ディスカッション/Comments and Discussion 押海圭一氏(琉球大学 研究推進機構 研究企画室) 川人よし恵氏(大阪大学 経営企画オフィス研究支援部門)

人文・社会科学系研究推進フォーラム*について

これまで、人社系研究推進に関するフォーラム、情報共有会など人社系研究推進にかかる各種イベントを共同で開催。なかでも、研究評価に関連したものは以下。

- 第3回人文・社会科学系研究推進フォーラム@琉球大学 | テーマ | 「地域と共に新しい"ジンブン"力を創造する人社系研究の展開] 2「キックオフミーティング!: 人社系研究の活かし方・伝え方・研究力の測り方を考えよう」 (2017/3/3)
- 第4回人文・社会科学系研究推進フォーラム@京都大学 | テーマ | 「人文・社会科学系研究の未来像を描く一研究の発展につながる評価とはー」 (2018/3/16)
- 第6回JINSHA情報共有会@京都大学「研究の発展につながる評価とは-研究評価の未来を洞察する-」(2019/7/26)

*人文・社会科学系の研究にかかわる研究者とURA(大学・研究機関におけるリサーチ・アドミニストレーター)、事務系職員、行政機関・資金配分機関の関係者等がともに議論し、考え、行動することで、互いにエンカレッジしながら、より良い研究推進のあり方を模索するためのフォーラム。2014年に発足。現メンバーの所属大学は大阪大学、筑波大学、琉球大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学、横浜国立大学

日本の研究評価の現状

- 今年度から運営費交付金の評価指標による再配分割合が10%(1000億円)に引き上げ。
- 若手研究者比率、教員一人当たり外部資金 獲得実績、運営費交付金等コスト当たりトップ 10%論文数などの数値指標(Metrics)による 資金配分が日本でも現実のものに。

人社系研究にとっての 課題 ○ 一方、欧米の研究評価「先進」地では、指標が もたらす弊害について議論が進む。

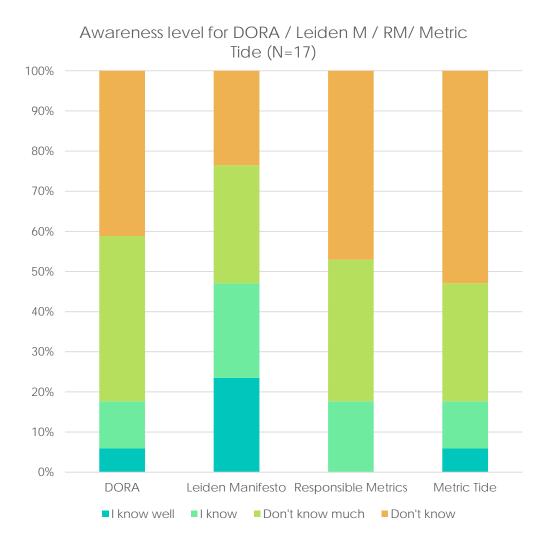
他分野にも共通の課題?♡

人社系研究にとって切実な指標問題、欧米の 議論から学べることがあるのではないか。

セッション企画の背景

欧米での研究 評価動向に 関する アンケート 結果

2019年8月メールにて実施





- ・細胞生物学分野の学会、学会誌編集者、研究者が中心となり、ジャーナル・インパクト・ファクター(JIF)の限界を指摘。助成機関、学術機関、研究者など対象ごとに勧告をまとめているのが特徴。
- 論文が掲載されている雑誌名ではなく、その論文の科学的内容こそを評価、また、 多様な研究成果物の価値とインパクトを評価するよう勧告。
- ・ 近年、ウェルカムトラスト、PLOSなどの支援を受け、常勤スタッフを配置、運営委員会を強化。2019年7月にはケンブリッジ大学も署名し、話題となる。

2015: 'The Leiden Manifesto for research metrics'

- ・ 計量データ・指標の責任ある利用のガイドラインとなる10の原則を科学計量学コミュニティが共同でNatureに発表。
- ・ 定量的評価は定性的評価の 支援的に利用、英語以外の言語に よる優れた地域的研究の保護、分 野による引用慣行の違いへの配慮 など10の原則を提唱。
- ・ ライデン声明のウェブサイトでは、 23言語の翻訳版のほか、関連動 向をブログで発信中。

http://www.leidenmanifesto.

COMMENT

BEALE UP Data moded to drive UE development system 2



COMM Questiamunical over proposed and imposed Advanta HSDS* Mass impired.
Newton to add more anionist mode ratiohers and



The Leiden Manifesto for research metrics

Use these ten principles to guide research evaluation, urge **Diana Hicks**, **Paul Wonters** and colleagues.

The state is the state of the s

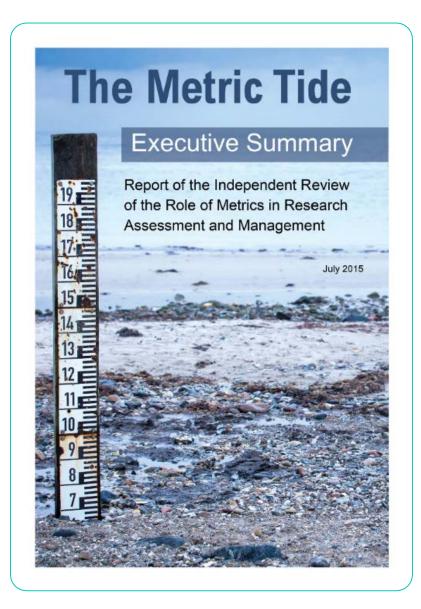
Adultions, grad position and interpolation. History 2002, there was the Science Otto-Berninshows CD-0004 investible to Substitution (DDI, cook) to expert to specialize the substitution (DDI, cook) to expert to specialize the substitution of the substitution of substitution of the substitution of substitution of substitution of the substitution of substitution of substitution of the substitution of we winter direct, such as In-Cites (using the 1g Wah of Schumen and School (eding Scopes). It envell as offloaretts analyse translational elleton profiles using Coooli Scholar Cubitation Repola school and 2000.

In ours, large Harco, a physical or the lin wrong of Calments, Sur Diego, grepend one bridge, popularithe devices bounting for indestinations or factor est unbegrowthness from green seedily me. "We've Turner before recorded!"

Lately, melitiar minische sestal parge.

23 ARBLU 305 | 904 as 2 | ARTUGS | 428

10 AV - No collin brokel in trading Mingleys says &



2015: 'The Metric Tide' by HEFCE

- 英国高等教育財政審議会 (HEFCE)が発行したResearch Excellence Framework (REF) での評価指標(Metrics)利用を議 論する報告書。ケント大のSimon Kerridgeが、研究マネジメント専門 職団体(ARMA)代表として参加。
- ・ REFのピアレビューとの比較から、 指標の効用も認めつつ、それだけに 依存することの危険性を指摘し、 Responsible Metricsという概念 を提唱。

Dr. Simon Kerridge

Director of Research Services University of Kent, UK

- リサーチマネージャー歴25年のケント大学研究サービス部長。プレ、ポスト、評価、経営戦略全般をマネージ。前ARMA会長(現顧問グループメンバー)、NCURAグローバル担当特別委員会委員など歴任。
- 2015年にイングランド高等教育財政協議会 (HEFCE)が刊行した独立報告書The Metric Tideの共著者であり、現在、INORMSのRAAAP (『専門職としてのリサーチアドミニストレーション』 プロジェクト) タスクフォースリーダー。博士 (Electronic Research Administration)。



Dr. Elizabeth Gadd

Research Policy Manager (Publications)
Loughborough University, UK.

- ラフバラ大学研究政策マネージャー(出版)。 INORMSの研究評価ワーキンググループの議長、 ARMA研究評価分科会の共同チャンピオン。
- Responsible Metrics (責任ある研究評価・査定)、著作権およびオープンアクセスの問題について、ブログ「The Bibliomagician」から積極的に発信、Lis-Bibliometricsフォーラムのチェア。
- ラフバラ大学は、The Metric Tide報告書刊行後の2017年、いち早く機関としてResponsible Metricsに賛同するポリシーを発表したことで話題になる。博士(著作権と学術コミュニケーション)。

